岩内山

発行
岩内高校PTA
広報委員会
岩内高校総務部



贈る言葉

PTA会長　大田　学

新型コロナウイルスが猛威を振るう今日この頃。皆様どうお過ごしでしょうか？町からはマスクが消え、ネット上ではマスクが数十万円するという理解不能な状況。皆さんはどう思われますか？

今年度の大きな出来事の一つとして、ラグビーワールドカップの日本開催が挙げられるでしょう、そして、日本チームの活躍に熱い声援を送ったのではないでしょうか。

日本チームの合言葉「ワンチーム」。さまざまな言語や文化が集まる選手たちが、まさにひとつとなって掴んだ初のベスト8。ワンチームは流行語大賞となり、開催前に心配された観客不足や、盛り上がらないのではないかという不安は、日本チームの活躍で消え去りました。

ラグビーと言えば忘れてはならない言葉がもう一つあります。「ワンフォアオール・オールフォアワン」。意味として諸説ありますが、「一人はみんなのために・みんなは一人のために」が一般的でしょう。

マスク騒動？残念でなりません。力のある人はたくさん買える、ない人は買えない。本当に必要としている人に行き渡らない状況に、リーチ・マイケルなら檄を飛ばすかも知れません。

今回の執筆テーマは「PTA会長挨拶」。だいぶ違う方向に行きましたので題名の贈る言葉によせていきます。

私たち世代で「贈る言葉」と言えば、「海援隊」もしくは「サンボマスター」ですが、今回は「GReeeeN(グリーン)」の卒業ソング「贈る言葉」のワンフレーズを紹介したいと思います。

『僕らまるでパズルのピース』

いろいろなとらえ方があると思われますが、私はこう考えます。

卒業生のみんなは岩内高校というパズルのピース。はじめは、はまらなかったピースも時を経て収まり、卒業を迎え、次のパズルへと進む。次のパズルがどんな形か不安と期待を胸に進んでいく事でしょう。

上手く収まる事もあれば、もちろん収まらない事もあるでしょう。むしろ、収まらない事の方が多いかも知れません。無理に収まろうとすれば、パズルは必ず合わなくなります。その時は一度、自分の形を見直すことで上手く収まるかも知れません。

どうしても収まらないのなら、退くべきです。進むよりも退く方がよっぽど勇気のいる事だから。

いつかピタッと収まる自分のワンチームを目指せるよう、私たちPTAは応援します。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、日頃よりPTA活動にご理解ご協力いただきまして心より感謝申し上げます。



新しい時代を生きるみなさんへ

校長　佐藤　渉

卒業する生徒のみなさん、卒業おめでとうございます。また、卒業生の保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。心身共に成長されたお子様の姿を見ることに喜びを感じていられることと思います。その成長した姿を見るのは我々教師にとっても大きな喜びであります。

さて、元号も令和に変わり、時代も大きな変化の波が来ています。情報社会と言われて久しいですが、更なる進化を遂げ、人類は第五世代のソサイティ5.0(Ⅰ:狩猟社会、Ⅱ:農耕社会、Ⅲ:工業社会、Ⅳ:情報社会、に続く新たな社会)を迎えると言われています。教育界においてもICT機器の活用などが進められ、教育のあり方も変化を遂げようとしています。現在の技術・知識がすぐに陳腐化し、役に立たなくなる世界。溢れる情報。中には意図的なフェイクニュースも存在します。その中で真実を見極める事は非常に困難かと思われますが、常に真実を見極めようとする意識と目を育て、強く生き抜く人間を育てるのが現在の教育に与えられた大きな使命だと痛感しています。

今年度も岩高生は大いに活躍してくれました。美術部・空手道部が全国大会への出場の権利を得ましたし、野球部は十五年振りの全道大会への出場、男子バレーボール部も六年振りの全道大会出場、卓球部・女子バドミントン部・水泳部・太鼓局・書道部や合同チームながら女子バスケットボール部も全道出場を果たしました。全道・全国に岩内高校の存在を示してくれたものと思います。子供達の頑張りとそれを支え続けてくれた保護者のみなさまと顧問の先生方には心より感謝申し上げます。

岩内高校はその前身である岩内町立女子職業学校が大正八年に創立され、今年度が一〇〇年目の節目の年でした。二〇二〇年度には一〇〇周年記念事業を予定しています。この伝統に甘んじることなく、先人が築きあげてくれた歴史に思いを馳せながら、新たな一〇〇年の歴史と伝統を築きあげて行く所存ですので、今後も御理解と御協力いただければ幸いです。

祝　卒業
三学年担任のことば

新たなる挑戦へ

学年主任・三年二組担任　斉藤　雅実

生徒の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。三年前の入学式の日、新しい制服に身を包んだ生徒たちと、その姿に温かい眼差しを向ける保護者の皆様の姿が、まるで昨日のことのように思い返され、月日の流れの早さを改めて感じております。

入学して間もなく、まだ仲間の顔色を窺い、緊張も解けないまま一路森町へ宿泊研修に行きました。野外炊飯コンテストという企画で、同じ具材を与え、同じ調理法を伝えているのに、こうもカレーの味が違うものかとマサミシュランという悪ふざけも手伝って大いに盛り上がりました。三年間を振り返った時に決まってその光景が思い出されるのは、私のもとへ寄ってきて「先生、次は俺たちのを食べてみて！」と言うみなさんの表情がきっと忘れられないのだと思います。そんな微笑ましいことだけが続けば良いのですが、五月の連休後はトラブル続き。面倒なことはやりたくない、アイツとは無理、など中学生気分がなかなか抜けない中、二歩進んでは一歩下がり、三歩進んでは四歩後退した時もあったような気がします。しかし、いつの間にかこちらの手を必要としなくなったり、時に思いを察したり、クラスや学年全体の雰囲気を読んだりと、私が端から見守っているだけの場面が多くなっていったのは、みなさんが確実に成長した証でしょう。今思えば、同じ顔ぶれで何気なく過ぎて行った日々に同じ日など一日もありませんでした。無駄な一日も、何も学ばなかった日もありませんし、すべてが成長の過程で必要なことであったと、今皆さんの姿を見て確信しています。その時間をみなさんと共有できたことは私にとってかけがえのない財産です。

さて、卒業を迎えた今、私は程なくしてみなさんのことを忘れます。新しい環境で新しい挑戦があるからです。でも、完全に忘れるということではありません。記憶として留め、後に思い出したときに、ゆっくりと自分の生き方を見つめ直したいと思います。四月からみなさんもそれぞれの環境で新たな挑戦が始まりますが、今まで以上の困難が待ち受けているのは言うまでもありません。ですから、早く卒業気分から卒業し、今度出会った時には「高校時代のほうが良かった。戻りたい…」より「今の方が楽しいよ、前より頑張ってるよ。」という声をぜひ聴かせてください。お返しに「まだまだ成長できるな」と声を掛けてあげようと、心待ちにしています。

最後に、今日までクラス・学年をはじめ、ＰＴＡ活動・部活動に至るまで、日々厚く支えていただいた保護者の皆様、地域の方々に深く感謝いたします。

回顧録「九十六歳の大学生と現代日本」

三年二組担任　佐藤　純一

昨年九月十五日現在、六十五歳以上の高齢者が三五八八万人で過去最多となっている。また、高齢者人口が総人口に対して占める割合を示す高齢化率が二八・四％となり、「超高齢社会」に突入している。更に高齢化率は約三十年後に四十％を超えるといわれている。題名にある「九十六歳の大学生」の話は、今から二十年前のことであり、当時はテレビで放送されるほど話題となった。当時大学生だった私には、とても衝撃的な内容であった。

この話の主人公は、浮世絵師の「歌川豊國」氏である。氏は、明治三十六年生まれ。尋常高等小学校を卒業後、手に職をつけるために写真館奉公や浮世絵の修行を行い、生計を維持してきた。戦時中・終戦直後は軍需会社社長も務めた。平成八年（九十三歳）に、大阪府立桃谷高等学校定時制課程へ入学。在学中に三歳年下の奥様が認知症となり、介護をしながら通学し続け、無事三年で卒業。平成十一年（九十六歳）で近畿大学法学部法学科の二部（夜間）に入学。入学後の目標は四年で卒業し、大学院修士課程修了と博士論文の執筆を掲げるが、大学二年の途中で亡くなってしまう。

生涯学習が叫ばれる中、果たして私も氏と同じような事が出来るか、と考えたが絶対無理だ。先日青森市の実家に帰る機会があり、二十年振りに氏の著書を読み返し、私自身と比較することにした。勉強不足が原因で語学系大学は全て不合格。分野が違う商学系大学を受験し、偶然にも合格。大学在学中に高校時代の担任上野桂子先生（現青森工業高校教諭）に憧れて教師を目指す。就職活動は一切せず、県の教員採用試験を受けるも、あえなく撃沈。その後、趣味が高じて郵政非常勤に採用。四年目の年度末間際に県教委から講師の連絡が届き快諾。念願叶って教員生活が始まる。その後、私立高校で教員募集をしていることを知り、採用される。その後、青森県内の少子化を考慮した結果、私立高校を退職し、北海道へ移住を決意。そして、岩内高校に赴任し、現在に至る。

十年前の日本は異常だった。企業の業績悪化に伴う解雇問題。老人が老人を介護する老老介護。教職を目指すが非常勤講師の口だけで生活ができない教職浪人＝官製ワーキングプア。異常現象「高齢者所在不明問題」の発生。更にＧＤＰが中国に抜かれ第三位へ転落。最近は、東京五輪のマラソン・強歩開催地が東京から札幌へ急遽変更。そして、卒業間近になり、コロナウィルスの発生。一体日本はどうなってしまうのか、このような問題は一体いつまで続くのだろうか。三年生が卒業し、社会問題や経済状況は改善されるのであろうか。担任として、これから卒業するあなた方のことを思うと、とても心配である。

私の場合は、何とか官製ワーキングプアから脱出することができ、今年で十三年目となった。幸いにも岩内高校

事務情報科の担任も務めることができた。職業学科の担任は初めてだった。口論になった、トラブルになった、イロイロあった。三年間振り返ってみると、この紙面では表せない程の出来事があった。卒業できるのは保護者だけでなく、たくさんの人に支えられていることを絶対に忘れないでほしい。加油！

成長への選択

三年三組担任　藤川　高宏

岩内高校第七十一期卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。みなさんにとって、この三年間はどのようなものでしたか。「全く同じ高校生活を過ごした」と言える人は存在しないでしょう。もちろん当たり前のことかもしれませんが、私には奇跡のようにも感じます。それは、この卒業という瞬間に至るまでに、それぞれが「様々な選択をしてきた」と言えるからではないでしょうか。私にとっても例外ではありません。

二十数年の短い私の人生ですが、それでもたくさんの選択の結果によって今の私が存在します。「次は何をしようか」という一瞬一秒の選択から、教師という職業選択、北海道という選択、岩内町との巡り合わせ、そして、みなさんと同じ学年であるという運命に至るまで。自己選択の連続と、想定し尽くすことのできない無限の可能性の中で、奇跡とも言えるこの瞬間が成り立ちます。

さて、これからみなさんはどのような選択をしていきますか。今まで当たり前のように誰かが示してくれていた「道」はありません。今日何をすべきか、次に何を目指すのか、どのような人生を送るのか…。そのような途方もない選択を迫られていく中、みなさんは自分の信念について真剣に向き合い、「自分だからこそできる選択」をしていく必要があります。なぜ自分はここにいるのか。なぜこの夢を目指しているのか…。その答えを自分の中でしっかりと用意できていなければ、やがて選択を誰かに任せ、なんとなくで決めてしまい、せっかくの奇跡とも呼べる素敵な可能性が、気付かぬうちに潰えていくことでしょう。

私にとってみなさんは、生涯忘れることのできないかけがえのない存在です。初めての担任としてみなさんと関わってきたという新鮮さもそうですが、なにより私自身がみなさんと一緒に「人生の一部」を歩むことができたからであると感じています。みなさんが大人へと変わっていくと同じように、私自身も人としてどんどん変化していくことができました。みなさんとの三年間の関わりを振り返るたび、「この選択をしてきてよかった」と素直に思うことができます。

私の信念は「成長」です。私たちがこれからも共に成長し続けることができることを信じ、私もたくさんの選択をしていきます。みなさんにもいつか自分の選択を誇りにできる時が訪れ、その選択がきっと誰かのための力となってくれることを願っています。

感謝

三年四組担任　小倉　恵一

岩内高校に来てもうすぐ六年が経とうとしています。私自身は江別市で育ち、職場もずっと石狩管内で、旅行の趣味もないため、岩内町を訪れる機会も、情報もありませんでした。しかし岩内高校とは何かと縁があります。

大学の先輩や後輩に岩内高校出身者が何人もいたこと。赴任してから気付いたことですが、大学生の頃からお世話になった方々が、歴代の美術科教員であったこと。また浪人中にした学生美術展のアルバイトで、やたら印象に残っていた作品が校内に展示されていて岩内高校のだと知ったこと。偶然と言えば偶然なのですが、岩内の六年間には自分にとって重要な転機がありました。

一～三年目…赴任した当時の私はしがない期限付き教員で、錚々たる歴代美術部顧問と部員の実績や伝統にビビっておりました。しかし、当時の部長は全国大会に行くのが決まっているし、一年生が学生美術全道展で大賞を獲るし、美術系の進学を目指す生徒も多いしで、必死すぎてビビっている場合じゃなくなりました。それまで正採用の教員になるために他教科の免許を取ろうとか他県を受けなきゃとか色々セコイことを考えていましたが、どうでもよくなりました。結局のところ、地方の町村にいて美術が好きで学びたいし能力もあるけれど、美術教員がいないばかりにその進路が限られる生徒のために教員になりたいんだと、嵐のような一年目に気付かされました。それなら話が来る限りは一生期限付きでも構わないと開き直ったような気持ちのまま採用試験を受けたら二年目に合格し、岩内高校に正採用でいられることになりました。

四年目以降…皆さんの担任になりました。これは正採用になって良かったことでした。毎日色々あって面白くて飽きることがありません。ただ後悔というか自問し続けていることもあります。様々な事由で岩内高校を離れたクラスの生徒たち。他に方法はなかったのか、自分が担任じゃなければこうならなかったのではないか、今でも考えます。

そして四〇歳になり、初めての担任を終えようとしています。私自身は大して成長もせず、保護者の方々、副担任や教科担任の先生方の善意と温情と指導力に甘え、好き放題に行動したツケを学年主任の斉藤先生に払わせる三年間でした。そんな私ですので、立派に成長し卒業する皆さんに似つかわしい言葉の持ち合わせがありません。私が言えるのは、「ただただ幸せな三年間でした。皆さんが今後生きていくときに『人生悪くない』と思える日々を過ごしてくれることを祈っています。ありがとう。」なのです。卒業おめでとうございます。



祝　卒業

卒業を迎えて

三年生委員長　藤田　美香

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ドキドキ、ワクワクしながら入学してから、もう三年が過ぎますね。この三年は皆さんにとって長かったでしょうか？短かったでしょうか？楽しいこと、辛い事、いろいろな思い出がたくさんできたと思います。人生で一番輝いている思い出です。

卒業後はそれぞれ新たな道へ進んでいきますね。充実した高校生活を送ったあなた達は「器の大きな社会人」になれるはずです。これからの人生の中で辛い事があっても、きっと乗り越えられます。大丈夫！頑張って自分の道を進んでください。

最後になりますが、教職員の皆様及び保護者の皆様のご理解とご協力を賜りましたこと、感謝申し上げます。楽しい三年間、ありがとうございました。

二年生委員長　石川　雄

岩内高校三年生の生徒及び保護者の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。

これから大学や短大、専門学校などへ進学する方、就職をして働く方、それぞれが皆不安と期待が入り混じる事と想像します。私は皆さんがこの岩内高校在学中に培った知識や技術、部活動などで得た功績、忍耐力、協調性など沢山のものを生かして、これからの次世代を担う人財になる事を期待しております。今の時代はＡＩ化が進み、社会に求められるものが段々と変わりつつあり、携帯電話やパソコンを通じて沢山の情報だけでなく、働き方も大きく変わりつつあります。又、人間関係においても今はＳＮＳなどを通じて簡単に連絡を取り合うことや、近況を発信する事で各々の情報を共有できる時代にもなっています。それらは時にトラブルのキッカケになりますが、お互いを助け合い、高め合うことも出来ます。そうしてお互いを支え合いながら、人間性を高めていく事が何よりも大切でありＡＩでは補う事が出来ない部分だと私は考えております。自分の心と体、他人の心と体を大切に出来る岩内高校の卒業生であることを期待しております。

最後になりますが、会員の皆様、役員の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様方のご協力により、無事一年間終える事が出来ました。この場を借りて感謝申し上げます。有難うございました。

ＰＴＡ活動を振り返って

ＰＴＡ副会長　甲谷　弘美

昨年に引き続きの役員、今年は副会長として一年を過ごさせていただきました。

役員活動をしていく上では家事や仕事の調整をしなければならないこともありましたが、学年の違いや子供の環境からは繋がらなかっただろう保護者の方や接点のない先生とも知り合うことができ、一緒に活動できたことは私自身にとって貴重な経験でした。

六花祭や強歩遠足等のお手伝いで生徒たちの活躍をより近くで見ることが出来るのは、何よりの役得と言えます。

会議も堅苦しい雰囲気は無く、会長をはじめ事務局の先生達が話をまとめてくれる安心感から自分の意見を自由に述べさせていただけました。

個人的な話になりますが、在学中の娘の他に独立した娘を持つ立場で実感しているのは、高校生活はわが子と日常を過ごせる最後の時間であったということです。その貴重な時間を少しでも多く共有するためにもＰＴＡ活動に参加させていただけて良かったと感じています。

最後になりましたが、この一年間の教職員と保護者の皆様の御協力に感謝申し上げます。

ＰＴＡ副会長　五百蔵茂基

ＰＴＡ副会長となって、早一年が過ぎようとしています。

今まで、幼児センター、小学校、中学校でＰＴＡ役員として活動してきましたが、高校のＰＴＡ役員は初めてのため、どんな事をするのだろう？親が関わる事は何だろう？と不安もありました。仕事の合間の数時間のお手伝いしか出来ませんでしたが、「六花祭」「強歩遠足」など他の役員やお手伝いの皆さんのおかげで、普段見られない学校生活の様子を眺めながら、「うどん」作りをお手伝いさせて頂き、貴重な体験を経験し、高校の学校行事も保護者の関わりが大切なことを知りました。

普段はなかなか仕事が多忙な保護者の皆さんも一度、数時間でも参加してみませんか？いつも生意気な言葉や態度をしている思春期の我が子、いつも家ではおとなしく「この子大丈夫？友達いるのかな？」と心配を抱えている保護者の皆さん。授業参観ではなく行事に参加している子どもを見ることでその不安を消せるかもしれません。また、同じ悩みを持っている保護者の皆さんと話すとこで、子育ての不安が少しでも解消されるかもしれません。「ＰＴＡ活動はそんな架け橋が出来る場」とこれまでのＰＴＡ活動を通して感じました。高校生とはいえ、私たち親から見たらまだ「子ども」です。と、偉そうな事を書いてしまいましたが、これからも都合が合えば「縁の下の力持ち」としてのお手伝いをさせていただき、我が息子の成長を見守りたいと思っております。

一年間ありがとうございました。

ＰＴＡ会計　明上　眞理

次男が入学し、岩内高校と関わってからもう三年。役員を引き受け二年になり、色々わかる様になってきたのにもう卒業です。(寂しい…)

最後の「六花祭」一番の思い出は、苦労した衣装作りと二位入賞のよさこい演舞です。二日目のバザーは、一昨年も昨年も雨だったので、今年は初の外での活動でした。役員・手伝いの方の最高のチームワークで無事に終わることが出来ました。

「強歩遠足」のうどん作りも、三年目になるとスムーズで、少ない人数でしたが楽しかったですし、頑張っている子供たちの姿を見る事が出来るのも、役員の役得だし、やってよかったなぁと思う事です。

みなさん、こんな感じなんですよ!!会議とお手伝いをちょっとするだけなんです。

参加人数が、だんだん少なくなってるんです…。

子供達の為に、見に来がてらお手伝いしませんか？

先生とも話す機会が増えますヨ！ぜひぜひ参加してみてください！！楽しいですよ！！！！

最後に、今年度の活動を無事に出来たのも保護者の皆様と先生方の御協力があったからでした。本当にありがとうございました。

PTA監査　**米田　祐子**

PTA役員を務めさせていただいて、二年が経ちました。役員の皆様や先生方に助けていただきながら、また一年を無事に終えることが出来ました事に感謝申し上げます。

六花祭や強歩遠足などのお手伝いの中で、子供たちの生き生きした姿、成長した姿を近くで見ることができ、楽しく活動させていただきました。高校生ともなると、なかなか親が関わる事も無くなってきますが、参加する事で学校での様子が少しでもわかり安心しています。

上の子から岩内高校にお世話になり五年が過ぎ、残り一年ではありますが、できる範囲でPTA活動に協力していけたらと思っています。一年間ありがとうございました。

PTA監査　**鈴木　法成**

PTA監査として、色々な活動や行事、会議等に参加させていただきました。

一年があっという間に過ぎた気がします。娘の学校生活を垣間見ることが出来て、とても有意義に一年を過ごさせてもらいました。

六花祭等、多少ですがお手伝いできたこと、またほかの父母の方々との親睦を深められたことが大変ありがたかったです。

保護者の皆様、校長先生をはじめ教職員の皆さま方には今後とも御指導等を宜しくお願い申し上げます。

PTA監査　**今井　暁子**

岩内高校の役員を引き受け一年が経とうとしています。

今年はすでに在校していた長男に加えて長女も入学し、二人分の弁当作りや部活動など慌ただしく過ぎゆくなか、私も微力ながらPTA活動のお手伝いに携わらせていただきました。

活動のなかで新しく発見し、出会うことの多かった一年だったと思います。子供たちと共に成長し、一緒に悩みながら時に面白く。そして長男は卒業。先生方におかれましては、三年間大変お世話になりました。

最後になりますが、PTA活動におきまして、先生方はじめ、保護者の皆様ありがとうございました。

一年生委員長　**成田　宏介**

息子が入学し、PTAに携わる様になって、もうすぐ一年が経とうとしています。一年目だし、ほとんどの方が初対面なので不安でいっぱいでしたが、皆さん温かく受け入れてくれて、とても感謝しています。当初は可能な限り行事に参加し貢献していこうと意気込んでいましたが、結局のところ、「六花祭」「町P連球技大会」にしか顔を出すことが出来ませんでした。

六花祭では、最初集合場所すらわからない状態でスタートしましたが、少しずつ勝手を理解しながら、何とかお手伝いを無事終了することが出来ました。

町P連球技大会では、味方の本格的な動きに逆に翻弄されながらも、好成績を収めることができました。

どちらも楽しく過ごし、交流を深めることができた有意義な時間となりました。関わった皆さんに感謝を申し上げます。

一年の終盤になっても、まだまだわからないことだらけですが、PTAの活動が、子どもたちのため、そして親同士や先生方との大切な交流の機会と捉え、今後も積極的に参加していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

岩内支部長　**枝元　直正**

上の子二人も当校のお世話になりました。

昨年の始めに、当時会長でありました福田さんよりお誘いいただきまして、PTA活動に入れていただくこととなりました。

下の子の小学校・中学校とPTA活動をさせていただいておりましたので、その延長線上のつもりもありましたが、何せ上の子たちの時は当校の行事などに行ってみることも無く、このままでは子供たちとの共通の思い出が少ないのでは、との危機感もありました。

おかげ様で六花祭、強歩遠足とお手伝いさせていただきまして、わが子、また当校の生徒さんたちの生き生きとした様子を感じ取ることができまして、至福のひと時でした。

また、わたくしは地元・岩宇出身では無く、しかも自営業なので、知り合いや友だちも少なく、自ら表に出て人と交流したいという思いもあります。ですので、PTA活動を通して、さまざまな方々とお知り合いになれることに、とても魅力を感じています。

札幌など都会の高校では、学力レベルで同じような感じの子たちが集まりますが、当校ではそのようなことはなく、さまざまな個性を持った子たちが集まるので、そのあたりでも面白さを感じますし、豊かな人間性が存在するように思います。

そして先生方も、岩内の気候風土に合わせて、人情味のある方が多く、子供を安心して預けられるように思っています。

わたくしも岩内高校の生徒になったつもりで、いろいろと体験し学ばせていただきました。一年間ありがとうございました。

わが子もまだ来年、再来年とありますので、これからもPTA活動に加わらせていただきたいと思っております。

教職員の皆さま、子供たちをどうぞよろしくお願いいたします。

共和支部長　**小西　栄子**

PTA役員に関わらせていただき、三年が経ちました。あっという間に過ぎた感じがします。いろいろな行事に参加できて楽しかったです。役員をさせていただいた事で、先生方や、役員の方々、保護者の方々と親しくなれたのも良い思い出です。

私は今期で退任となりますが、保護者の皆さんには一度でも良いので、学校行事へ足を運び、子供たちの様子を見たり、生活の応援してもらいたいと思います。

最後に、先生方、保護者の皆様、そして役員の皆様、温かく支えて下さって、本当にありがとうございました。

皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

泊支部長　**釜谷　聡子**

泊支部長を引き受けてから一年、娘が入学してから二年が終わろうとして

おります。
高校でのＰＴＡ活動は、上の子供たちが地方の高校だったこともあり、ほとんど関わることがなく、今回初めての役員でした。
泊地区の懇談会並びに懇親会は、地区役員の方々の協力で、無事に終わることができました。泊地区の保護者の皆様、先生方、準備及び参加して下さり、感謝申し上げます。
全体としては、六花祭の協力しかできませんでしたが、子供たちの頑張りはもちろんのこと、教職員、保護者の皆様のサポートは必要不可欠ですし、先輩役員の方々には、心よりお礼申し上げます。
最後になりますが、ＰＴＡとして今後もできる限り学校行事に協力していきたいと思っております。一年間ありがとうございました。

神恵内支部長　**長浜　伸志**

岩内高校にお世話になり、早いもので二年が経ち、息子も四月からは三年生になります。入学当初は、長時間のバス通学や今までと違った学校環境の中で上手くやっていけるか心配もありましたが、学校の出来事や友達の事など、いつも楽しそうに話してくれる息子の様子を見て安心しています。また昨年は、野球部が十五年ぶりに全道大会に出場し、全校応援という貴重な体験もできました。子供たちが勉強や部活など充実した学校生活を送れるのも、ひとえに諸先生方のご指導の賜物だと感謝申し上げます。
ＰＴＡ役員としては、昨年の四月から神恵内支部長として一年が経とうとしています。
支部の活動では、九月に地区懇談会を開催し、多くの保護者の方に参加いただき、盛会のうちに終えることができました。
ＰＴＡ活動の大きな行事である「六花祭」と「強歩遠足」は、私自身、岩内高校の卒業生ではないので、いつも新鮮な気持ちで自分の高校時代を思い出しながら、楽しく参加させていただいています。ただ昨年は、六花祭のパレードの警備以外まともにお手伝いすることができなく大変申し訳ありません。いつも子供のことは妻に任せきりなので、私もＰＴＡ活動を通して、少しでも多くの学校行事に貢献できればと思います。
最後に、今年は長男に続いて次男も岩内高校を受験する予定です。諸先生方や保護者の皆様には、まだまだお世話になると思いますので、宜しくお願いします。

健全育成委員長　**藤井　春美**

この一年間ＰＴＡ活動のお手伝いを楽しくさせていただきました。六花祭など学校行事や部活動の発表など、子供たちの真剣に取り組む姿を見て、頼もしく思い一年一年の成長を感じています。これも先生方、保護者の皆様のご協力があったことと感謝しております。そして、行事への参加・お手伝いを通して私自身も楽しみが増しました。我が家の末娘も残り一年となり、寂しさも感じていますが、私もできる限りお手伝いさせていただこうと思っております。

研修委員長　**長谷川忠司**

この一年間、研修委員長を務めさせていただきましたが、実際にお手伝いできたのは六花祭のバザーのみと、他の役員さんや担当の先生方には多大なるご迷惑をお掛けしてしまった一年間でした。
ただ、その参加できた六花祭では娘の頑張っている姿と共に、小中学校で役員をしていた際に顔を覚えた子供達と再会できた事が、とても良い思い出となりました。
今後もできる範囲は限られますが、岩内高校の生徒たちが少しでも楽しく学生生活を送れるよう、貢献できればと思います。
最後になりますが、生徒や教職員、保護者の皆様のご多幸を祈念いたします。ありがとうございました。

ほかに数名のＰＴＡ役員の方々がいらっしゃいます。これからも色々な形で御協力・御支援のほどよろしくお願い申し上げます。
（岩内高校ＰＴＡ事務局）

進路指導を振り返って

進路指導部長　**高橋さおり**

今年度は、自分の志望や適性を早期に見極め、適切に取り組めた生徒と、目標を定められず進路決定に時間のかかった生徒と、双方が見受けられました。特に、就職活動において、受験先決定に時間がかかり、ハローワークなどにもご協力いただきました。
企業の方は、高校生に「即戦力」を求めているわけではありません。教えられたことを真摯に吸収する力、斜に構えず素直に聞くこと、わからないことを訊ねること、そして成長しようとすることを必要としています。希望する条件とは少し違っても、入社して三―五年経ったらどんな風に仕事をしているのか（できるようになっているのか）を想定し、多くの可能性を検討していただきたいと思います。
進学に関しては、専門学校を中心にＡＯ入試で合格した生徒が多い一方、一般入試で挑戦した受験生も例年より多いと感じております。一般入試ではまず学力（点数）が合否を決めますし、また次年度より評価される「主体性」「協働性」については、裏付ける「実績」が求められます。どちらにしても、直前の瞬発力ではなく、日頃の積み重ねが大きく影響します。
一年生は地元の企業の方にご協力いただき、業務内容から仕事のやりがい、地域との関わりについて伺ったり、卒業間近な三年生や卒業生の話を聞く取り組みをしました。二年生は、大学生や先輩と意見交換をしたり、２日間のインターンシップで実際の職業を経験させていただきました。振り返る活動や対話的活動をを多くとり、これまでより自分の将来について「考える」取り組みができるようにしております。今後、進学、就職どちらにしても、自分が成長できる道を選んでほしいと考えています。
最後に、インターンシップや講演会等で、地域の方々にも大変お世話になりました。生徒の成長にお力を貸してくださったことに感謝申し上げます。今後も、進路指導部では生徒の進路実現を第一にサポートして参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

3年生 進路状況

※2／17(月)現在

就職内定先

＜管内＞
株式会社　ビクトリア観光
株式会社　北海道銀行
佐竹建設株式会社
西正則税理士事務所
有限会社　高津自動車工業所
きょうわ農業協同組合(２名)
三陽建設工業株式会社
税理士法人　中野会計事務所
コアレックス道栄株式会社
株式会社　カナモト
社会福祉法人黒松内つくし園　緑ヶ丘ハイツ
倉島乳業株式会社　仁木工場(２名)
株式会社　高橋牧場　ニセコミルク工房
日本郵便株式会社　北海道支社
株式会社　加森観光本社
北海道信用金庫

＜道内＞
株式会社　太陽流通
株式会社　ハーベスト
株式会社　もりもと
株式会社　レンブラントホテル札幌
株式会社　三和通建
株式会社　寿司田
株式会社　新和
株式会社　ぬくもりの宿　ふる川
北海道電力株式会社
有限会社　渡辺理美容店
株式会社　セノン　千歳支社

＜公務員＞
岩内町役場
北海道警察
陸上自衛隊(５名)

進学合格先

＜大学＞
室蘭工業大学　工学部　創造工学科
札幌国際大学　観光学部　国際観光学科
札幌大学　地域共創学群　スポーツ文化専攻
札幌大谷大学　芸術学部　美術学科　造形表現領域
日本医療大学　保健医療学部　看護学科
北海学園大学　経済学部１部
北海商科大学　商学部
北海道医療大学　心理科学部　臨床心理学科(２名)
北海道科学大学　工学部　電気電子工学科
　工学部　機械工学科
　薬学部　薬学科(３名)
北海道情報大学　情報メディア学部　情報メディア学科
北海道千歳リハビリテーション大学
　リハビリテーション学科　理学療法学専攻(２名)
北翔大学　生涯スポーツ学部　スポーツ教育学科
　教育文化学部　教育学科

＜短期大学＞
北海道武蔵女子短期大学　英文学科
北星学園大学短期大学部　生活創造学科

＜高等看護学校＞
小樽市立高等看護学院

＜専門学校＞
愛犬美容看護専門学校　動物看護科
大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校
　OA経理ビジネスコース
大原法律公務員専門学校
　国家公務員・地方初級コース(２名)
　文化教養専門課程　警察官コース
経専医療事務薬業専門学校　医療事務学科
経専北海道観光専門学校
　観光サービス学科　ウェディング科
経専北海道保育専門学校　こども学科(３名)
札幌アニメ・声優専門学校
　エンターテイメント総合科　声優＆スタッフコース
　デジタルテクノロジー科　e-sports総合プロゲーマーコース
札幌スポーツアンドメディカル専門学校
　スポーツトレーナー科(３名)
札幌ビューティーアート専門学校
　エステティック科(２名)
札幌ベルエポック製菓調理専門学校
　カフェ科
　製菓製パンショコラ科
札幌ベルエポック美容専門学校
　トータルビューティ科
　美容師科
札幌マンガ・アニメ＆声優専門学校
　マンガデザイン学科　コミックイラスト専攻
　声優学科　声優専攻
札幌医療リハビリ専門学校　作業療法学科
札幌医療秘書福祉専門学校　診療情報管理士科
札幌商工会議所付属専門学校　情報・マネジメント学科
札幌青葉鍼灸柔整専門学校　鍼灸学科
日本工学院北海道専門学校
　工業専門課程　自動車整備科
北海道ハイテクノロジー専門学校　救急救命士学科
北海道理容美容専門学校　美容科(２名)
吉田学園医療歯科専門学校
　歯科衛生科
　臨床工学科
吉田学園情報ビジネス専門学校　情報システム学科

編集後記

新元号となった令和の年に、岩内高校ＰＴＡ役員で広報委員長を務めさせて頂きました福田直樹です。この一年間、様々な場面で力添えを頂いた保護者の皆様、教職員の皆様、役員の皆様には心より感謝とお礼を申し上げます。

荒波の日本海、神々しい岩内山、豊かな四季と恵みの食。幸せな日々が過ごせる地域であるからこそ、これが当たり前と感じてはいけない。人が人として苦労があるからこその産物です。私たちはこの当たり前に感謝しなければならないと思います。

物や環境だけではありません。人との繋がりもそうです。

岩宇地域で、そして岩内高校で感じる人と人との関係性は、どこを切り取っても無駄なモノが一切なく、これからの人生の糧になる土地柄だと思います。時には厳しい言葉もありますが、愛情深く、人を見守ってくれる方々が本当に沢山居る地域です。その豊かな心が失敗に気付かせてくれ、今後の道標を示してくれました。合わせて、やるぞと言う決意と自信をも持たせてくれました。

学校行事で見せる岩高生の笑顔、協力してくれる保護者の皆さんの優しい顔、皆を支える教職員の真剣な眼差し。この宝が君の直ぐ傍にあります。

この環境で育った岩高生も今後は自分が誰かの為に何かをしたいと思う様になる。そんな豊かな精神をこれからも育まれていく高校である事を願っております。

次の百年の歴史に思いを寄せて。行きましょう！次の時代へ。

広報委員長　福田　直樹

部活動結果（十二月～二月）

令和二年二月十七日現在
●★：地区大会、◎☆：全道大会、△▲：その他の活動

卓球

◎令和元年度第47回北海道高等学校選抜卓球大会（12月13日～15日）札幌市
☆男子学校対抗　1回戦敗退
☆女子学校対抗　2回戦（初戦）敗退
☆男子ダブルス
丹川元恒輝・田中魁斗ペア
1回戦敗退
☆女子ダブルス
武内優奈・山田　遼ペア
ベスト16
塚田好葉・増田美也ペア
1回戦敗退

バレーボール

●令和元年度　第49回小樽・後志高校新人戦バレーボール大会（12月7・8日　余市町）
★男子第4位（6チーム中）
★女子第4位（6チーム中）
●令和元年度　第14回北海道高等学校バレーボール新人大会後志予選会（1月11日　岩内町）
★男子第1位（3チーム中）
★女子第2位（2チーム中）
◎令和元年度　第15回北海道高等学校バレーボール新人大会（1月31日～2月2日　千歳市）
☆男子1回戦敗退
（対　立命館慶祥　セットカウント1―2）

バドミントン

◎第52回北海道高等学校新人バドミントン大会兼第48回全国高等学校選抜バドミントン大会南北海道予選会（1月15日）苫小牧市
☆女子団体
1回戦
岩内高校　0―3　北海道栄高校
△第44回小樽冬季バドミントン選手権大会（高等学校の部）（2月1日）小樽市
△男子ダブルス
2回戦敗退
黒崎　竜雅・水産高校生組
△女子ダブルス
準々決勝敗退
鈴木　未緒・新保衣桜里組（ベスト8）
2回戦敗退
高林　乙葉・小林　日菜組
1回戦敗退
岩城里莉花・高等聾学校生組

空手道

△令和元年度第27回河北新報杯争奪全国高等学校空手道選手権大会（12月24～26日）宮城県岩沼市
▲女子団体組手　予選リーグ敗退
▲女子個人組手
鈴木　晶（1―2）2回戦敗退
鈴木　晶（1―2）2回戦敗退
矢田もえな（1―3）1回戦敗退
吉田　結唯（1―3）1回戦敗退
村瀬　七海（1―4）1回戦敗退
▲男子個人組手
宮川　功聖（1―4）1回戦敗退
◎第37回北海道高等学校空手道選抜大会兼第39回全国高等学校空手道選抜大会北海道予選会（1月15～17日）小樽市
☆女子団体形
準優勝　※全国大会出場決定
☆女子個人形
第5位　鈴木　晶（1―2）
☆女子個人組手59kg以下級
優　勝　鈴木　萌（1―2）
※全国大会出場決定

テニス

△第46回小樽室内テニス選手権大会（2月1日）小樽市
▲男子シングルス
大井　ベスト8
栗林　決勝トーナメント1回戦敗退
藤沢　予選リーグ敗退（1勝1敗）
堀　予選リーグ敗退（1勝1敗）
池口　予選リーグ敗退（2敗）
佐藤　予選リーグ敗退（2敗）
坂本　予選リーグ敗退（2敗）
馬場　予選リーグ敗退（2敗）
△第13回小樽室内テニスダブルス大会（2月2日）小樽市
▲男子B級ダブルス
大井・栗林　予選リーグ敗退（1勝1敗）
佐藤・藤沢　予選リーグ敗退（2敗）
池口・堀　予選リーグ敗退（2敗）
坂本・馬場　予選リーグ敗退（2敗）

サッカー

●第31回全道U―18フットサル選手権大会兼JFA第7回全日本U―18フットサル選手権大会北海道代表決定戦小樽地区予選会
対　小樽潮陵高校B　1―2　負
対　北照高校A　0―4　負
対　倶知安高校　1―3　負
対　小樽水産高校A　0―2　負

女子バスケットボール

◎第32回北海道高等学校バスケットボール新人大会（2月7～9日）函館市
☆1回戦敗退
対帯広南商業　32―104
※小樽未来創造と合同チーム

美術

◎2020第12回道展U21（1月31日～2月2日）札幌市
☆中西出版賞　小田桐栞音
○優秀賞　中越　悠豊
○奨励賞　福森　勇次、庄子　萌
渡部　妃乃
枝元風慈子
○入選

祝　空手道部　2年連続全国大会出場決定！　全国一勝を目指して！

一月十五日(水)～十七日(金)に第三十七回北海道高等学校空手道選抜大会に参加した空手道部は、女子団体形で準優勝、女子個人組手59kg以下級で鈴木萌さん（一年）が優勝。三月二十六日(木)～二十八日(土)に石川県で行われるJOCジュニアオリンピックカップ第三十九回全国高等学校空手道選抜大会に出場します。二年連続の全国大会で、悲願の全国一勝を目指します。

また、一月三十一日(金)には岩内町役場を表敬訪問しました。木村清彦町長は「体調に気を付けて頑張ってきてください」と激励して下さいました。

